

SHOW HEY シネマルーム

Data

監督・脚本：ウディ・アレン
出演：スカーレット・ヨハンソン/
ペネロペ・クルス/ハビエ
ル・バルデム/レベッカ・ホ
ール/パトリシア・クラーク
ソン/ケヴィン・ダン/クリ
ス・メッシーナ

それでも恋するバルセロナ

2008年・アメリカ、スペイン映画
配給/アスミック・エース・96分

2009(平成21)年3月30日鑑賞

試写会・梅田ヒカデリー

👁️👁️ みどころ

親友同士のアメリカ娘が、ひと夏のバカンスを過ごすために訪れたバルセロナで出会った自由かつ奔放な愛の姿とは？1人の画家をめぐる、元妻を含む3人の女性との間で展開される恋模様は？渡辺淳一が描くそれとは全く異質のそれは、いかにも情熱の国スペインにふさわしいもの。男性諸氏は、アカデミー賞助演女優賞をゲットしたペネロペ・クルスの「怪演」に注目しながら、この映画から女の口説き方を学ばなければ・・・。

* * * * *

ちょっとナレーションがうっとうしい？

スカーレット・ヨハンソンがウディ・アレン監督の3度目のミュージーに、アメリカ人のスカーレット・ヨハンソンがスペイン人のペネロペ・クルスと共演、『ノーカントリー』(07年)で不気味な殺し屋を演じてアカデミー賞助演男優賞を受賞したハビエル・バルデムが一転してカッコいい画家役に。そう聞くと、こりゃ何としても観なければと思うのは当然。また、インターネットで米映画批評として批評を公開している岡本太陽氏の映画批評の採点は8.5点とメチャ高い。ところが、映画冒頭に登場するのはスカーレット・ヨハンソン演ずるクリスティーナと、私にはあまり馴染みのないレベッカ・ホール演ずるヴィッキーの2人。あれ、本作でアカデミー賞助演女優賞を受賞したペネロペ・クルスはいつから登場するの？

学生時代から大の親友だったクリスティーナとヴィッキーはひと夏のバカンスを過ごすためにスペインのバルセロナにやって来たのだが、恋愛に関する2人の考え方や価値観は正反対。すなわち、ヴィッキーは男性に誠意と安定を求める堅実タイプで、まじめな好青

年ダグ（クリス・メッシーナ）と婚約中。他方クリスティーナは情熱的な恋を求める自由奔放タイプで、危険な香りがあっても魅力あふれる男性を探し中。なるほど、そんな問題提起を受けてバルセロナでの恋の展開模様が注目されるわけだが、あまり最初からナレーションで性格分析をされてしまうと映画としての面白みや深みに欠け、ちょっとうとうとしいと感じるのは私だけ？



2008 Gravier Productions, Inc. and MediaProduccion, S.L.

『それでも恋するバルセロナ』

09年6月27日～梅田ピカデリーほか全国ロードショー

配給：アスミック・エース

やっぱり女はアーティストに弱い動物？

一世を風靡した小室哲哉も5億円の詐欺罪によって今や落ちぶれてしまったが、全盛期にはカッコよかったから、次々と女性にモテたはず。そう考えると、離婚して巨額の慰謝料をもらった吉田麻美はラッキーで、落ちぶれた彼を今懸命に支えているKEIKOはアンラッキー？必ずしもそうはならないところが、男女の仲の面白いところ。

本作に登場するアーティストは音楽家ではなく画家のファン・アントニオ（ハビエル・バルデム）だが、ヴィッキー達が滞在しているナッシュ夫妻の言葉によると、アントニオは元妻のマリア・エレナ（ペネロペ・クルス）とドロ沼離婚したばかりらしい。そのド

口沼離婚は、何と殺傷沙汰だったらしいというから大変。ところがクリスティーナはパーティーで一目見た時から、そして当初は断固拒否していたはずのヴィッキーもなぜか次第に画家のアントニオに惹かれていったから、やはり女はアーティストに弱い動物？

アントニオの口説き方は、婚活の参考に

急激な不景気に突入した中、学生諸君の就活は大変だが、近時顕著になっているのが女性の口説き方がわからない若者が増えたことによる、婚活すなわち結婚活動。これは、メール頼り、パソコン頼りで対面式会話に慣れていない若者たちが陥っている一種の病気のためにやむなく生まれた対処法。しかし本来、女の口説き方は男として自然に覚えるもので、教科書や先生から教わるものではないはず。そう考えると、本作におけるアントニオの口説き方は実に参考になる。私が思うに、女を口説くについて何より大切なことは、自信と誠意。所詮自分自分だから、アントニオほどの絵の才能がなくとも何か自分の良さを見つけ、それに自信を持つことが大切。また、いくら拒否されても誠意を持って何度も口説くことが大切。I Love Youを10回言っただけでは効果がなくても、100回、1000回誠意をもって言えばきっと効果があるはず？

客観的にみると、アントニオはかなりの浮気モノ。したがって、まず口説いていたクリスティーナが胃潰瘍で倒れると、親友のヴィッキーにチョッカイを出してたちまちめくるめく歓喜の一夜を過ごすことに。ところがクリスティーナが元気になると、「やはり僕はクリスティーナが好きなんだ」と一転してクリスティーナといい仲に。そして、後半になって別れた妻マリア・エレナが登場すると、何とそこには見事な三角関係が。こんな稀代のプレイボーイ、ファン・アントニオによる女の口説き方は、婚活の参考になるはず。

ガウディのサグラダ・ファミリアを、違う視点から

松下奈緒主演の『未来予想図~ア・イ・シ・テ・ルのサイン~』(07年)は純愛モノながら、ガウディのサグラダ・ファミリアをメインとしたスペインの観光映画だった(『シネマルーム16』351頁参照)が、ウディ・アレン監督がはじめてスペインで撮影した本作も、違う視点から見たサグラダ・ファミリアを中心とした一種のスペイン観光映画。

ローマの観光旅行をした人にはオードリー・ヘップバーン主演の『ローマの休日』(53年)により親しみがもてるように、バルセロナの観光旅行をした人には、本作はより興味深いはず。プレスシートには「スペイン観光MAP」があるから、時間とお金に余裕のある人は、本作の鑑賞を契機としてバルセロナ観光旅行に旅立ってみれば。そうすれば、レストランで食事をしている2人に近寄り、突然「オビエドに招待したい」「週末を過ごして街を案内する。食事とワインを楽しんでセックスをする」という彼の提案に乗ったクリスティーナとヴィッキーのように、刺激に満ちた冒険旅行が体験できるかも・・・。

アカデミー賞助演女優賞ゲットに納得！

第81回アカデミー賞助演女優賞にノミネートされたのは、本作のペネロペ・クルスの他『ダウト~あるカトリック学校で~』（08年）のエイミー・アダムスとピオラ・デイビス、『ベンジャミン・バトン/数奇な人生』（08年）のタラジ・P・ヘンソン、そして『レスラー』（08年）のマリサ・トメイ。『レスラー』だけはまだ観ていないが、既に観た『ダウト~あるカトリック学校で~』のエイミー・アダムス、ピオラ・デイビス、そして『ベンジャミン・バトン/数奇な人生』のタラジ・P・ヘンソンに比べれば、やはり本作におけるペネロペ・クルスの「怪演」は衝撃的で、助演女優賞ゲットに納得！

スペイン人としてはじめてアカデミー賞主演女優賞にノミネートされた『ボルベール<帰郷>』（06年）では彼女の重厚な演技が光っていた（『シネマルーム13』198頁参照）しかし本作では、アントニオ以上の才能ある画家としての魅力、気まぐれで気が強く、そしてエキセントリックな性格の魅力、そして彫りが深く目の大きな、絶対的に美しいペネロペ・クルスの魅力が満開。もっとも、彼女が助演女優賞をゲットしたのは、魅力的な美女が次々と汚い言葉を吐く激しい演技のアンバランスさにアメリカの審査員たちが魅了されたため？

やっぱり、焼酎より赤ワインの方が・・・

私はいつの頃からかウィスキーをやめて焼酎党に転向した。私の周りにそういうおじさんが多いのは、ウィスキーやビールに比べると焼酎の方が身体にいいと理解しているためだ。それと同じように、一時ポリフェノールを含む赤ワインは身体にいいと宣伝されていたが、所詮ガブ飲みすれば身体に良くないのは当たり前。

カリフォルニアの葡萄酒醸造所（ワイナリー）へのワインツアーに出かけた中途半端な2人の男を主人公にした『サイドウェイ』（04年）（『シネマルーム7』212頁参照）の試写会では、終了後粋なワインサービスに感激して、つい2杯3杯と飲んでしまったことをよく覚えている。バルセロナにおけるアントニオとクリスティーナ、ヴィッキーたちの食事風景には必ず赤ワインが登場する。さらにワインに酔った勢いでいろいろなハプニングが起きるから、本作を観ていると誰でも赤ワインを飲みたくなるはず。そう考えると本作の試写会でもワインサービスを実施してほしかったと思うのは私だけ・・・。

また、試写終了後つくづく思ったのは、おじさんが1人で飲むには焼酎で十分だが、「この女性は！」とターゲットを定めて口説くには、やはり焼酎ではなく赤ワインにしなければ、ということ。さて、今年1月26日に還暦を迎えた私に、今後そんなチャンスがどれくらい訪れるのだろうか？

愛はどこまでも自由かつ奔放に・・・

ウディ・アレン監督は1935年生まれだから、既に74歳。しかし創作活動においても私生活においても、愛を求める姿はどこまでも自由かつ奔放なようだ。張藝謀(チャン・イーモウ)監督は新人女優発掘の達人だったが、スカーレット・ヨハンソンを新たなミュージーズとして発見したウディ・アレン監督の、彼女を核とした創作活動は『マッチポイント』(05年)『タロットカード殺人事件』(06年)に続いて本作が3度目。しかも、これらの作品では撮影現場をアメリカからイギリスに移したうえ、本作では「スペイン上陸!」とまさにやりたい放題。04年11月1日から06年1月31日まで日経新聞に連載された渡辺淳一の『愛の流刑地』には衝撃を受けたが、彼は今『欲情の作法』が大ヒット。やっぱり、どこまでも愛を自由かつ奔放に追求している男たちは違うものだと感じ。

そんなウディ・アレン監督が74歳にして描いた自由かつ奔放な愛のあり方を実践しているのが、アントニオとエレナだ。アメリカからバルセロナへのひと夏のバカンスで、それにまず目覚めたのはクリスティーナ。そして、気持の上ではそんなふしだらな愛を否定しつつ、どうしようもなくその世界に気持が惹きつけられていくのがヴィッキー。さあ、そんな若くて魅力的そして愛と幸せを求める2人のアメリカ女性が、「それでも恋するバルセロナ」でひと夏を過ごした後に訪れる結末とは?

ウディ・アレン監督の作品はいつも簡にして要を得ており、本作も91分と手頃な時間にまとめられているから気楽に楽しめること間違いなし。クリスティーナ、エレナ、ヴィッキーという3人の美女を見比べ、かつその性格分析を楽しみ、そしてアントニオがみせる女性の口説き方を学びながら、渡辺淳一が描く愛の姿とは異質のバルセロナにおける愛の形を堪能したい。

2009(平成21)年4月3日記

五輪開催はどこ?本作の影響力は?

12年のロンドン五輪は08年の北京五輪とは全く雰囲気が変わるはずだが、それに続く16年の五輪はどこで?それはシカゴ、東京、リオデジャネイロ、マドリードの4つに絞られ、現在激しい誘致合戦を展開中。09年4月19日東京を視察したIOCの評価委員長が「世界一コンパクトな五輪」と誉めたが、それは本音?それともリップサービス?

『それでも恋するバルセロナ』のペネロペ・クルスが「女の戦い」を制して第81回アカデミー賞助演女優賞に輝いたのは、一にも二にも南国の太陽のような美しさのおかげ。これによって、バルセロナが一躍有名になったから、16年五輪はスペインが一歩リード?

2009(平成21)年6月1日記